

横浜市インフルエンザ流行情報 11 号

横浜市医療局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

インフルエンザの流行が継続しています

【2025 年第 2 週(1 月 6 日～1 月 12 日)の概況】

- ✓ 定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **24.95** です。
- ✓ 年齢別では、15 歳未満の報告が全体の 52.0%を占めています。
- ✓ 学級閉鎖等は、中学校を中心に 6 施設、患者数は 74 人です。
- ✓ 市内迅速診断キットの結果は、A 型 99.5%、B 型 0.5%、A 型・B 型共に陽性 0.0%で、A 型が多く検出されています。
- ✓ 病原体分離・検出状況では A/H1pdm 型の分離数が多くなっています。

☞ 咳エチケット、手洗い、こまめな換気^{※2}等でインフルエンザを予防しましょう

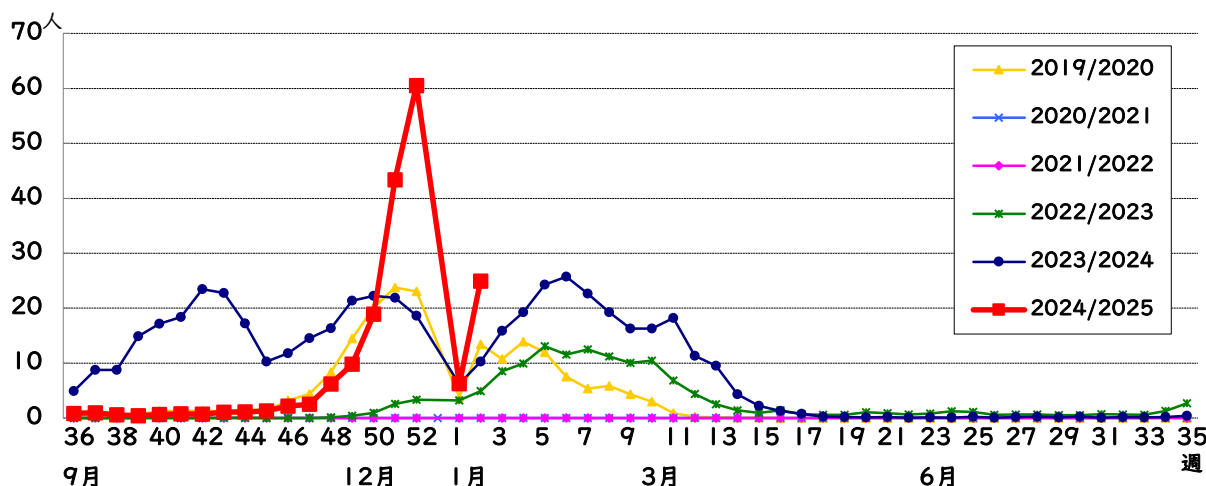


※1 定点あたりの患者報告数とは、1 週間に 1 回、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただく医療機関(市内 153 か所)から報告された患者数の平均値です。

※2 令和 6 年度インフルエンザ Q&A(厚生労働省)に、インフルエンザの予防方法等が掲載されています。

【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、2024 年 12 月中旬(第 50 週 18.91)に流行注意報の発令基準(10.00)を上回り、第 51 週には 43.33 で流行警報の発令基準(30.00)を上回りました。2025 年第 1 週は 6.24 でしたが、年末年始により定点医療機関が休診中のことが多いため、流行の実態を正確に反映していないことが考えられます。第 2 週は 24.95 です。



【地図で表した直近3週間の区別流行状況】

(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

【参考】

直近流行(2023/24シーズン)の流行推移

流行の開始【定点あたり1.00以上】

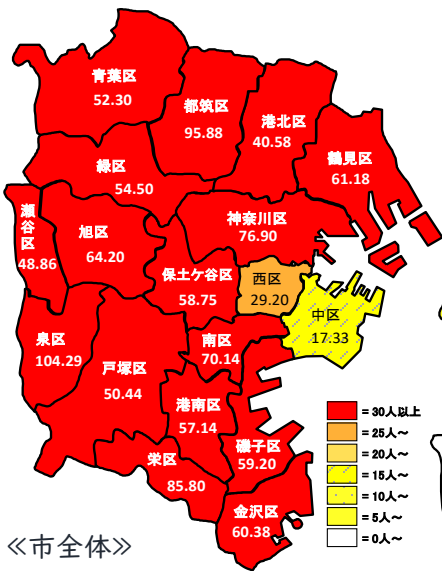
第34週(2023年8月21日~8月27日)

流行注意報発令【定点あたり10.00以上】

第39週(2023年9月25日~10月1日)

流行注意報解除【定点あたり10.00未満】

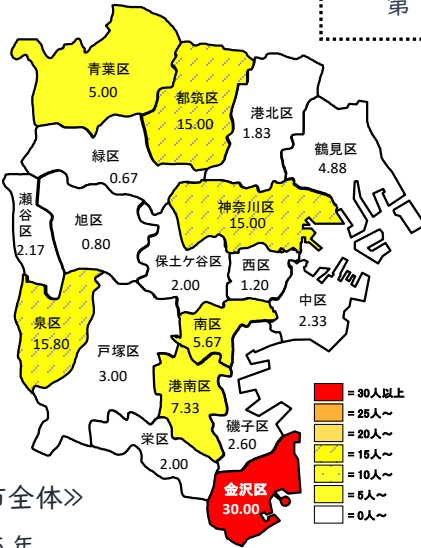
第13週(2024年3月25日~3月31日)



《市全体》

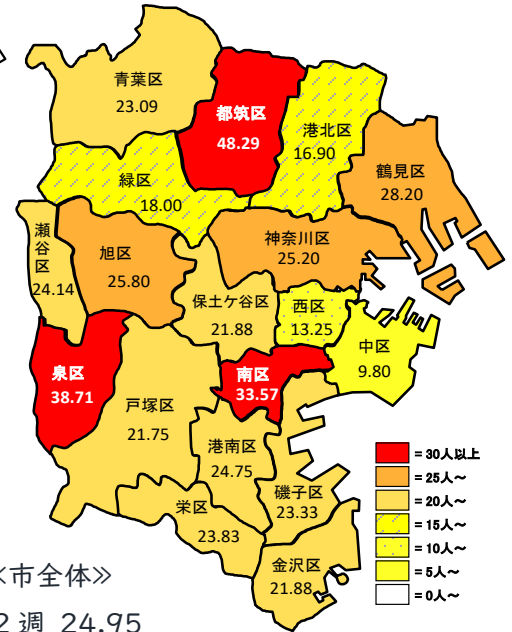
2024年
第52週 60.52*

* 追加報告のために、以前お知らせした情報から報告数が更新されました。



《市全体》

2025年
第1週 6.24



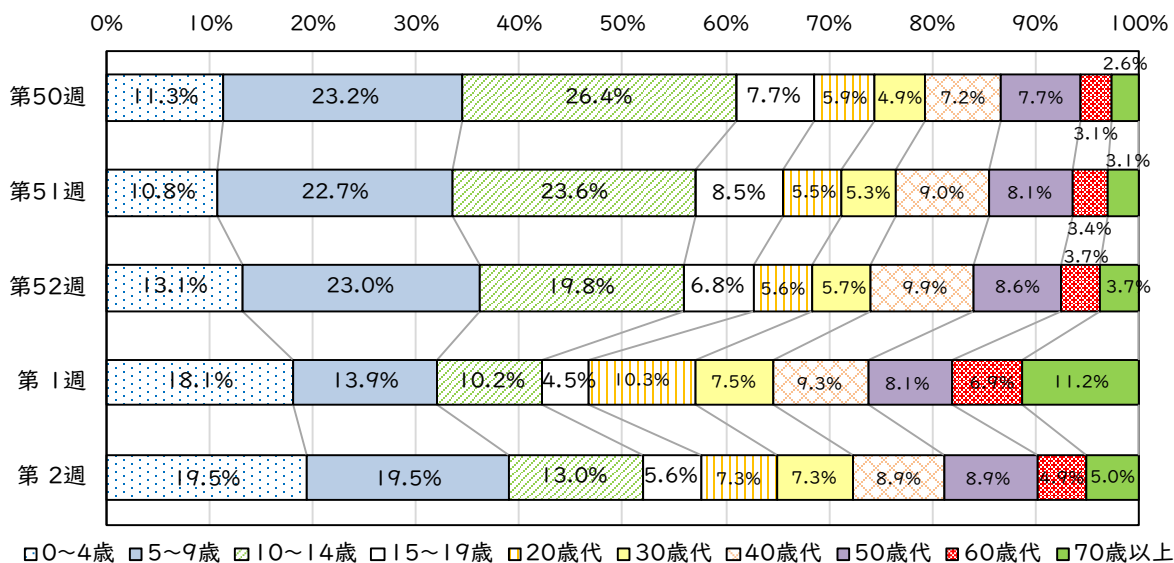
《市全体》

第2週 24.95

【年齢層別集計】

2025年第2週の患者年齢構成は、10歳未満が39.0%、10歳から15歳未満が13.0%で、15歳未満が全体の52.0%を占めています。

<年齢層別患者割合>

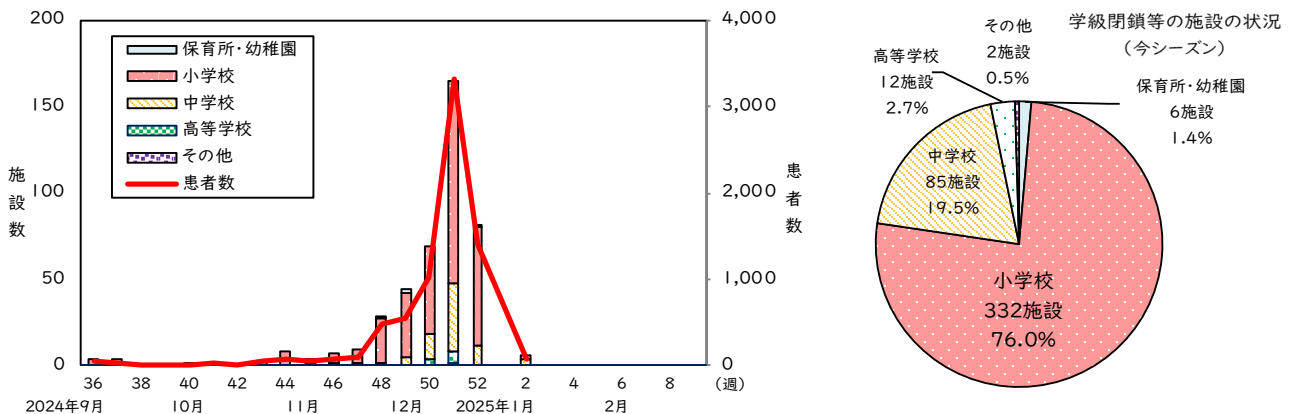


□0~4歳 □5~9歳 □10~14歳 □15~19歳 □20歳代 □30歳代 □40歳代 □50歳代 □60歳代 □70歳以上

注) 小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。

【市内学級閉鎖等状況】

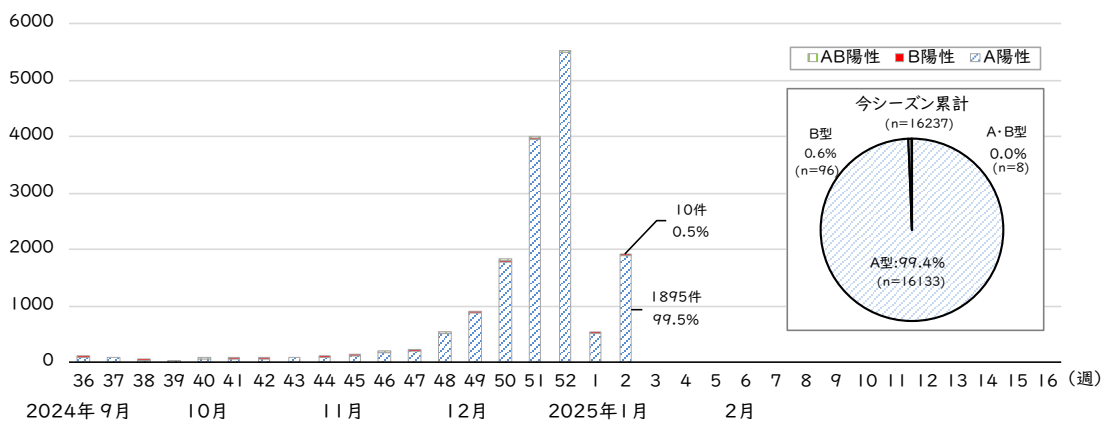
2025年第2週は6施設(小学校2、中学校4)から、74人の患者数の報告がありました。なお、今シーズンの累計は437施設、延べ7,362人の患者数が報告されており、施設毎の割合は、保育所・幼稚園1.4%、小学校76.0%、中学校19.5%、高等学校2.7%、その他0.5%です。



【迅速キット結果】

2025年第2週の迅速キットの結果は、A型99.5%、B型0.5%、A型・B型共に陽性0.0%で、A型が多く検出されています。

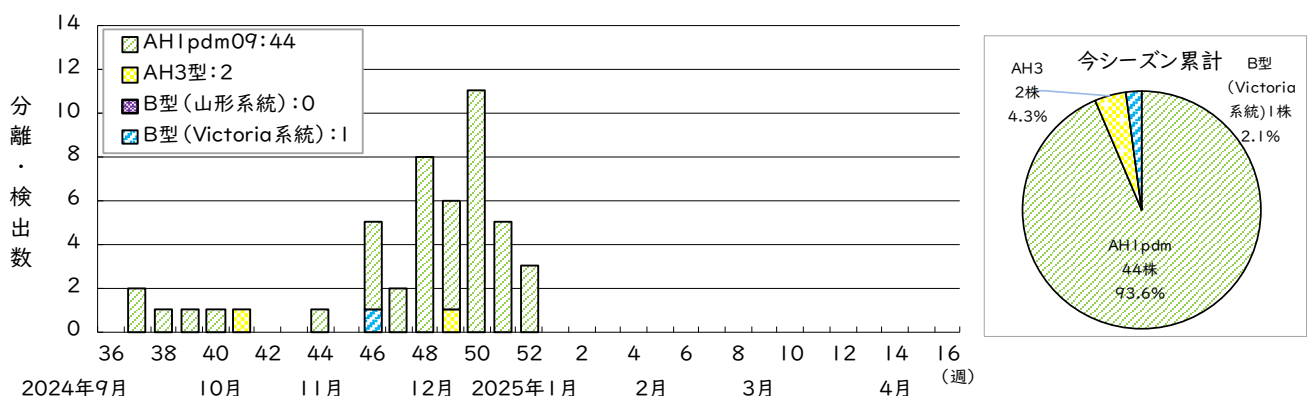
なお、今シーズンの累計は、A型99.4%、B型0.6%、A型・B型共に陽性0.0%です。



【市内病原体検出状況】

市内の病原体定点^{※4}から累計で、AH1pdm09が44株、AH3型が2株、B型(Victoria系統)が1株分離・検出されています。全国の分離・検出状況^{※5}と同様の傾向と考えられます。

<市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況(2025年1月14日現在)>



※4 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所に採取されています。

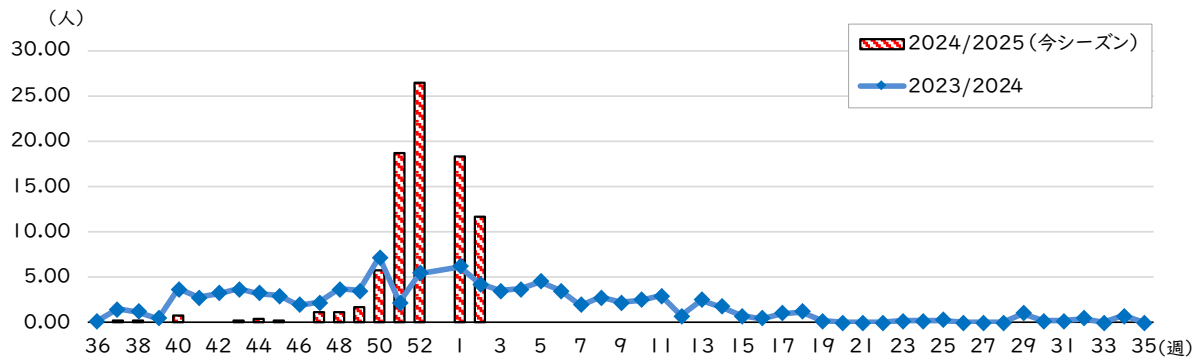
※5 インフルエンザウイルス分離・検出速報(国立感染症研究所)

【入院サーベイランス】

市内基幹定点医療機関^{※6}におけるインフルエンザ入院患者は、2025年第2週は47人の報告があり、今シーズンは現在までに累計351人（10歳未満48人、10歳代9人、20歳代9人、30歳代10人、40歳代11人、50歳代28人、60歳代34人、70歳代78人、80歳以上124人）です。

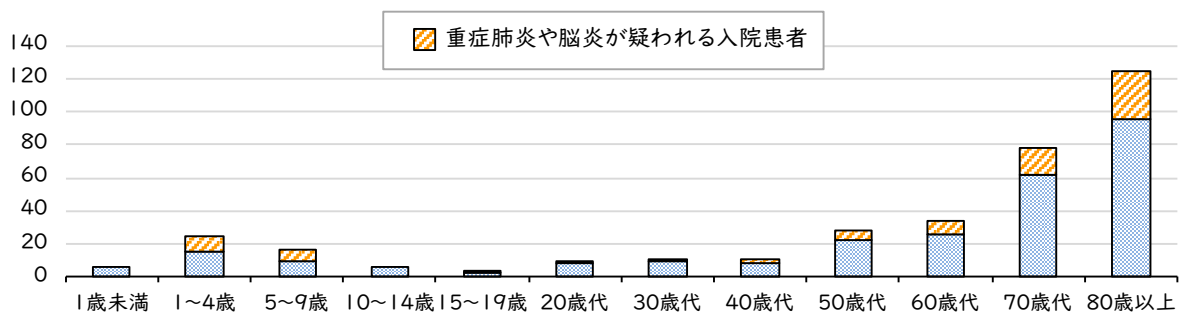
入院時の診療内容（ICU入室、人工呼吸器の利用、頭部CT検査、頭部MRI検査、脳波検査を実施）で重症肺炎や脳炎が疑われる患者は、現在までに累計で82人（うち第2週報告数は9人）です。

<基幹定点あたりの入院患者報告数の推移>



※6 基幹定点：患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。

<基幹定点の入院患者報告数（年齢別）>



* 参考リンク

近隣自治体の流行状況

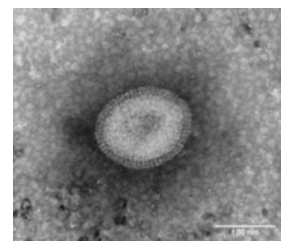
- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

インフルエンザウイルスの
電子顕微鏡写真(6万倍)

撮影：
横浜市衛生研究所



【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
横浜市医療局健康安全課

TEL 045(370)9237
TEL 045(671)2463